

令和4年10月31日 三重県議会予算決算常任委員会 「地方創生臨時交付金!!」 自民県議会派 決算総括質疑で登壇!



去る10月31日、県議会予算決算常任委員会が開かれ、「地方創生臨時交付金」、「森林環境譲与税の活用」など、令和3年度決算総括質疑で登壇しました。

1. 地方創生臨時交付金について!

質問 令和2年(2020年)に創設された、コロナ対策の中心的なものの中に、政府が全国の自治体に交付する「新型コロナウイルス感染症対応」地方創生臨時交付金があります。

感染拡大の防止や、その影響を受け、雇用の継続と事業の継続などの地域経済や住民生活の支援等、地方創生を図るため、地方公共団体が地域の実情に合わせて、きめ細やかに必要な事業を即実施できるように創設された交付金であり、原則として使途に制限がないため、事業内容は多岐にわたっています。県はコロナ交付金に係る検証および公表を実施しているのか?

答弁 県内29市町のうち、23市町に対し実地検査があった。指摘を受けた事例をあげると、「水道料金の減免事業で、公共施設も対象としていた。」

市町の公表状況について、県で把握している情報では、「すでに公表している市町は、一部に留まっている。」、「未公表の市町のうち多くは年度内に公表を予定。」

このたびの会計検査院の指摘に対して、県は、全ての県内市町に情報を共有し、今後の事業実施や計画策定に活用できるように、市町の事業執行と検証結果の公表が適切に行われるよう支援していくと答弁されました。

2. 森林環境譲与税の活用について!

質問 県が協定の枠組みの下におけるわが国の温室効果ガス排出削減目標の達成や災害防止を図るため、森林整備等に必要な地方財源を安定的に確保する観点から、森林環境税及び森林環境譲与税が創設されました。

森林環境税は、令和6年度から、個人に対し課税される国税であり、市区町村において、個人住民税均等割りとして併せて一人年額千円が課税されることとなっています。

その税収は、全額が森林環境譲与税として都道府県・市区町村へ譲与されます。

森林環境譲与税は、都道府県・市区町村が、それぞれの地域の実情に応じて森林整備及びその促進に関する事業を幅広く弾力的に実施するための財源として活用されています。

県内市町における令和3年度末時点での森林環境譲与税の活用状況は、森林経営管理制度に基づく森林所有者への意向調査を含む森林整備が全体の43%、公共施設整備での木材利用が9%、担い手対策が1%となっており、残り47%が活用されずに基金として積み立てられている。とのことであり、

森林環境譲与税の活用ならびに、平成26年に創設した「みえ森と緑の県民税」の県の取組内容について質問しました。

答弁 森林環境譲与税を活用して、本県における森林整備等がしっかりと進んでいくよう、また、両税を活用した事業の相乗効果が図られるよう、両税の用途を明確にして取組を進めていくと答弁されました。

質問 こうした中、令和3年4月に「三重の木づく条例」が施行され、令和3年10月に条例に基づいた「みえ木材利用方針」が策定されました。

本方針に沿って、公共建築物等における木材利用とともに、日常生活や事業活動において様々な形で「木」を取り入れていくための取組を進めることとなっております。

そこで、公共建築物以外の建築物における県産材の利用拡大に向けた県の取組内容について質問しました。

答弁 県が整備する「公共建築物」の木造化・木質化や公共土木施設への、県産産材を優先した木材利用などの取組が進められておりますが、木材の利用を一層進めていくためには、中・大規模建築物いわゆる「ビル建築」や非住宅建築物、事業所・商業施設等など、公共建築物以外の建築物における、県産材の活用を優先した木材の利用拡大を進めていくと答弁されました。



決算総括質疑 (左 中森県議・右 一見知事)

「伊賀地域幹線道路整備促進!!」

昨年3月、国交省は激甚・頻発化する災害やインフラの老朽化等の喫緊の課題への対応を踏まえた「三重県新広域道路交通計画」を発表しました。

本計画は、概ね20〜30年間の中長期的な視点で、新たに「名阪バイパス」と一般広域道路であります。また、「中和津道路」が位置付けられました。

去る8月2日、国土交通省近畿地方整備局の水野宏治道路部長へ、「近畿と三重県を結ぶ道路整備の将来について」、「①伊賀地域を南北に結ぶ「名神名阪連絡道路」の国道165号までの南進や、②伊賀地域を東西を貫く「名阪バイパス」「中和津道路」の整備促進について、陳情しました。

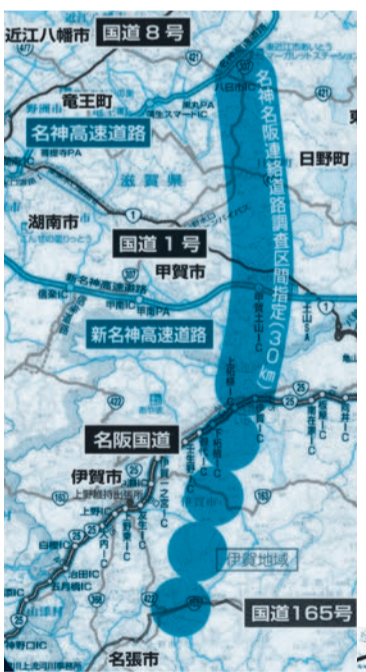
◎名神名阪連絡道路のルート決定へ!
これまで、県・県の道路管理者が連携し、交通課題の把握、課題の原因分析、再作案の抽出等を進めてきました。

去る11月16日、名神名阪連絡道路整備促進のための「第1回有識者会議」が開催され、目標、意見聴取方法の進め方を決定し、年度内に地域住民等への「意見聴取」に着手し、いよいよ「ルート帯が決定」する見込みとなりました。

↓ 第1回住民等意見聴取会：道路交通課題に関する意見聴取
↓ 第2回有識者委員会：第1回意見聴取結果の確認、ルート帯(3案)の方針決定
↓ 第2回住民等意見聴取：ルート帯(3案)に関する意見聴取
↓ 第3回有識者委員会：令和4年度内にルート帯を決定

◎一般国道368号4車線化の整備促進!
名張市工区では、令和4年度に国道368号4車線化が、国道165号蔵持原出入口差点まで完成します。今後は八幡工業団地から北へ進めます。

そして、伊賀市工区では、令和7年度完成を目指し、現在伊賀市上ノ庄(新岡波病院)交差点まで



の4車線化の供用が進み、大内橋の上部工の工事を進めます。また、上長瀬工区の道路改良も引き続き工事を進めます。

◎第2名阪道路(名阪バイパス)構想!
平成18年9月から令和4年2月まで、三重県議会の一一般質問や代表質問において、延べ10回にわたって「第2名阪道路(名阪バイパス)構想」を提案し実現に向け取り組んできました。

◎中和津道路!
11月14日、奈良県宇陀市と三重県名張市による「国道165号(中和津)整備促進協議会」が発足しました。本会は、国道165号の「重要物流道路」の指定と整備・機能強化の早期実現を図ることを目的としています。

◎主要県道の整備促進!
◎一般県道上笠間八幡名張線
萬生地内のバイパス工事を先行するとともに、橋梁の設計を進めます。

◎主要地方道上野名張線(新田地内のバイパス道路)
平成30年度に発足した「主要地方道上野名張線バイパス道路促進期成同盟会」による要望活動により、本年度までに、ようやく計画路線の用地確定が終了し、来年度から用地買収に着手します。

◎主要地方道上野名張線(蔵持工区)
令和4年度は、約2億3千万円の予算工事費規模で早期完成を目指します。

◎一般県道名張青山線・赤目滝線、主要地方道名張曾爾線などの整備促進
道路拡幅や落石防止などの整備をします。

常任委員会県外調査・議員派遣研修

①環境生活農林水産常任委員会、県外調査

去る8月30日から9月1日にかけて、農福連携の取組について北海道「農業と福祉のまち」月形町の、NPO法人サトニクラス、脱炭素社会実現に向けた取り組みについて石狩市、藻場の再生に取り組んでいる増毛町並びに新さっぽろエネルギーセンターを視察研修した。



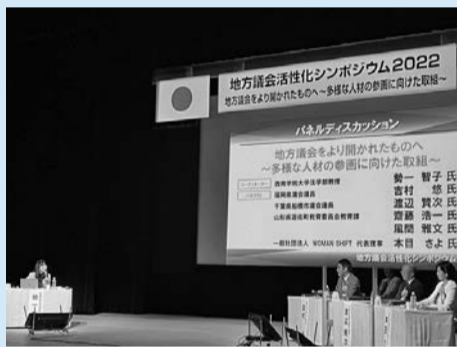
②予算決算常任委員会理事会、県外調査

去る11月9日から10日にかけて、県民参加型の行政評価を図っている静岡県議会の「ふじのくに」土民協働施策レビューについて、官民連携による課題解決を実施している埼玉県議会を視察研修した。



③地方議会活性化シンポジウム2022 議員派遣研修

去る11月11日、総務省・全国都道府県議会議長会主催のシンポジウムに参加し、「多様な人材が参画する地方議会の実現に向けて」と題して西南学院大学法学部教授の勢一智子氏による基調講演に続いて、「地方議会をより開かれたものへ、多様な人材の参画に向けた取り組み」のテーマでパネルディスカッションが開催され、地方議会の活性化について研修した。



去る11月1日、国土交通省から、2023（令和5）年6月16日（金）18日（日）、志摩市で「G7交通大臣会合」の開催が決定した旨の発表がありました。
県においては、G7三重・伊勢志摩交通大臣会合推進協議会の県議顧問として、開催支援をはじめ開催機運の醸成や三重の魅力発信を進めています。

2023(令和5)年 G7交通大臣会合の開催決定!

令和4年度「沖縄・三重の塔」戦没者慰霊式参列!

「三重の塔」は、沖縄県宮平和記念公園の「摩文仁の丘」に、県が昭和40年に建立し、沖縄だけでなく、南方諸地域等で戦没した本県出身者5万3千余柱を祀る慰霊塔です。
従来、三重県遺族会の主催により、年に一度、戦没者慰霊式が執り行われていましたが、本年より（昨年は中止、本年11月7日）県主催で慰霊式が実施されました。
私は、県議としての参列だけでなく、「英霊にこたえる会」三重県本部会長として、追悼のこたえを捧げました。



令和5年度「三重県本庁部局の組織の見直し」

1. 政策立案機能と企画調整機能の強化のため、「政策企画部」を設置
2. リニア中央新幹線の開業に向け、「地域連携・交通部」を設置
3. 大阪関西万博など戦略的な観光誘客の推進のため「観光部」を設置
4. 行政サービスのDXを進めるため、総務部に「デジタル局」を設置
5. 脱炭素社会の実現、資源循環型社会の推進のため、環境生活部に「環境共生局」を設置
6. 南部地域の活力向上に向け、地域連携部に「南部地域振興局」を設置

率先実行!

「第一回 みえの木 建築コンクール 表彰式」に出席

去る10月28日、第1回みえの木建築コンクール表彰式に三重県建築士会顧問県議として出席した。三重の木づくりに基き、県産材を優先した民間の木造、木質の魅力の建築物が多く入賞された。



「みえ景観フォーラム」に参加

去る11月12日、みえ景観まちづくり会議に参加し、近大高専の田中和幸氏による「名張旧町まちなみと町屋について」の講演を聴き、名張地区の登録有形文化財を巡った。



「赤目 秋まつり」に出席

去る11月20日、赤目地区で開催された「赤目秋まつり」に出席し、「赤目」の文化芸術の発表や、手作りの竹あかりを鑑賞した。



誠心誠意

三重県議会議員 中森 博文

第40回目の節目として、記念すべき県政報告をさせていただきます。
今回は、令和3年度決算審議での総括質疑に登壇した内容を中心に、伊賀地域の幹線道路整備進捗状況や新しい三重県庁の組織改造などについて記載させていただきました。
6月4日にadsホールでの元法務大臣上川陽子衆議院議員をゲストに「県政報告会」をさせていただきました。次回はコロナ禍であっても来年3月26日にadsホールをお借りして開催する予定であります。
さて、このたび亀井利克氏が勇退され、新しく北川市政が船出され、今後のかじ取り役に大いに期待するところであります。
一方私事ですが、このたび、はからずも全国都道府県議会議長会より在職20年以上表彰の栄を受け、身に余る光栄とこれまで支えていただいた、選挙区名張市民の皆様方に感謝御礼であります。
これまで5期20年間、私は県政一筋、ぶれることなく、今日まで名張市選挙区からの県議会議員として、与えられた職責を真摯に受け止め、あらゆる出来ることを、県議会の立場から市勢発展のため誠心誠意努めてまいりました。
日々県政課題が山積している中、さらなる県議会議員として果たす役割と使命を十分踏まえ、「決断と実行」を合言葉に、引き続き県政の場において、挑戦してまいります。ご理解賜りますようお願い申し上げます。
気候の変わり目です。どうぞみなさまご自愛ください。

届けようあなたの声を!

広聴・広報委員会

声 「三重県議会議員報酬」について知りたいのですが?

答 三重県議会議員報酬については、厳しい三重県財政のもと、議会経費削減の観点から、令和元年5月に条例改正し、議員報酬83万円から10%(83,000円)削減し、74万7千円となっています。さらに、政務活動費も毎月30%(99,000円)を削減しています。

インターネットで本議会や委員会の中継を配信し、みえ県議会だよりにおいて「届けようあなたの声を県議会」と銘打って広聴に取り組んでいます。



メッセージ

QRコードをスキャンすれば、活動報告が見られます。



【QRコード】

ご意見をお寄せください
中森博文事務所

TEL・FAX 65-0298
Email: hirofumi@nava21.ne.jp
http://www.e-net.or.jp/user/nakamori